

んっ

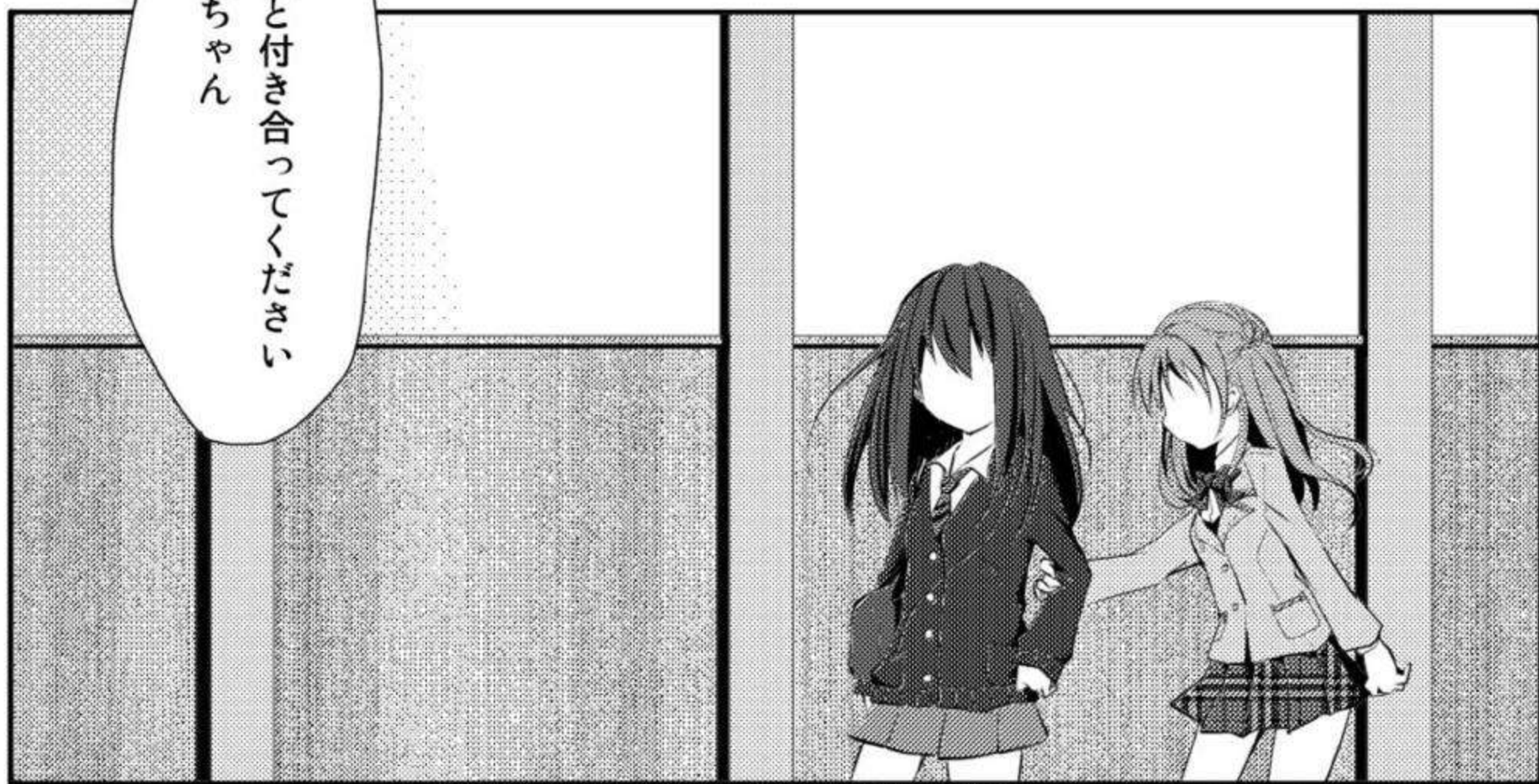
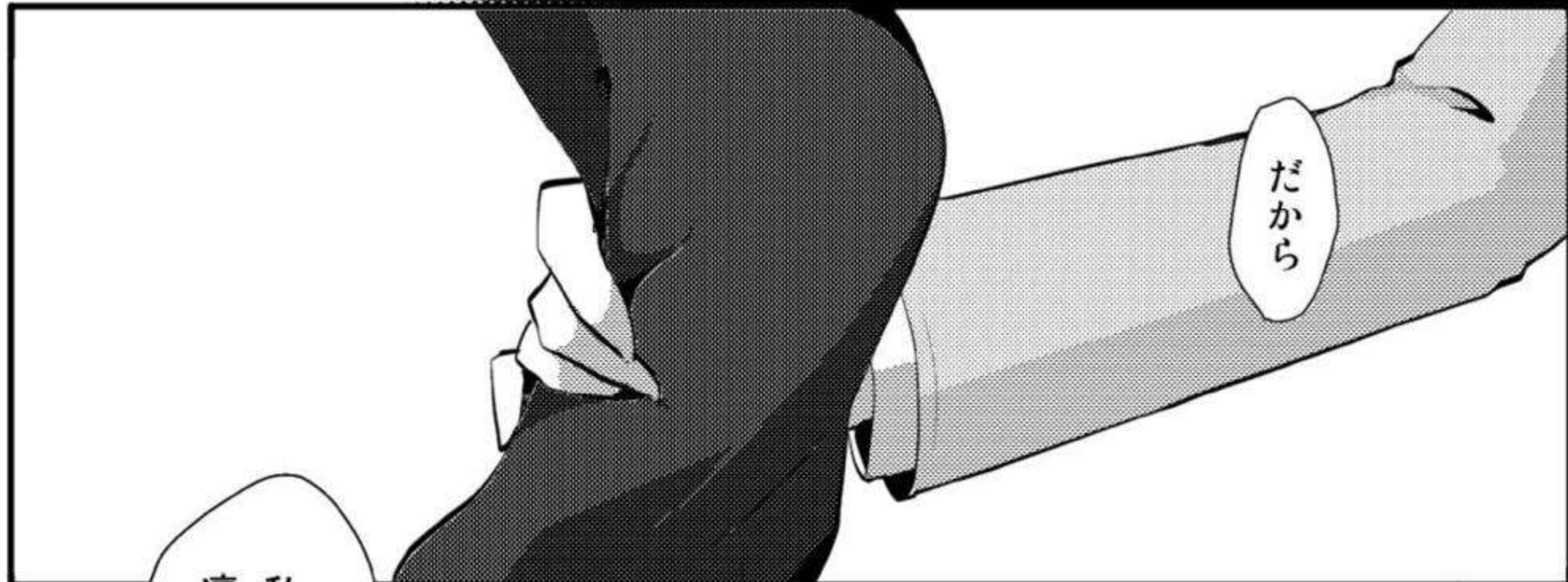
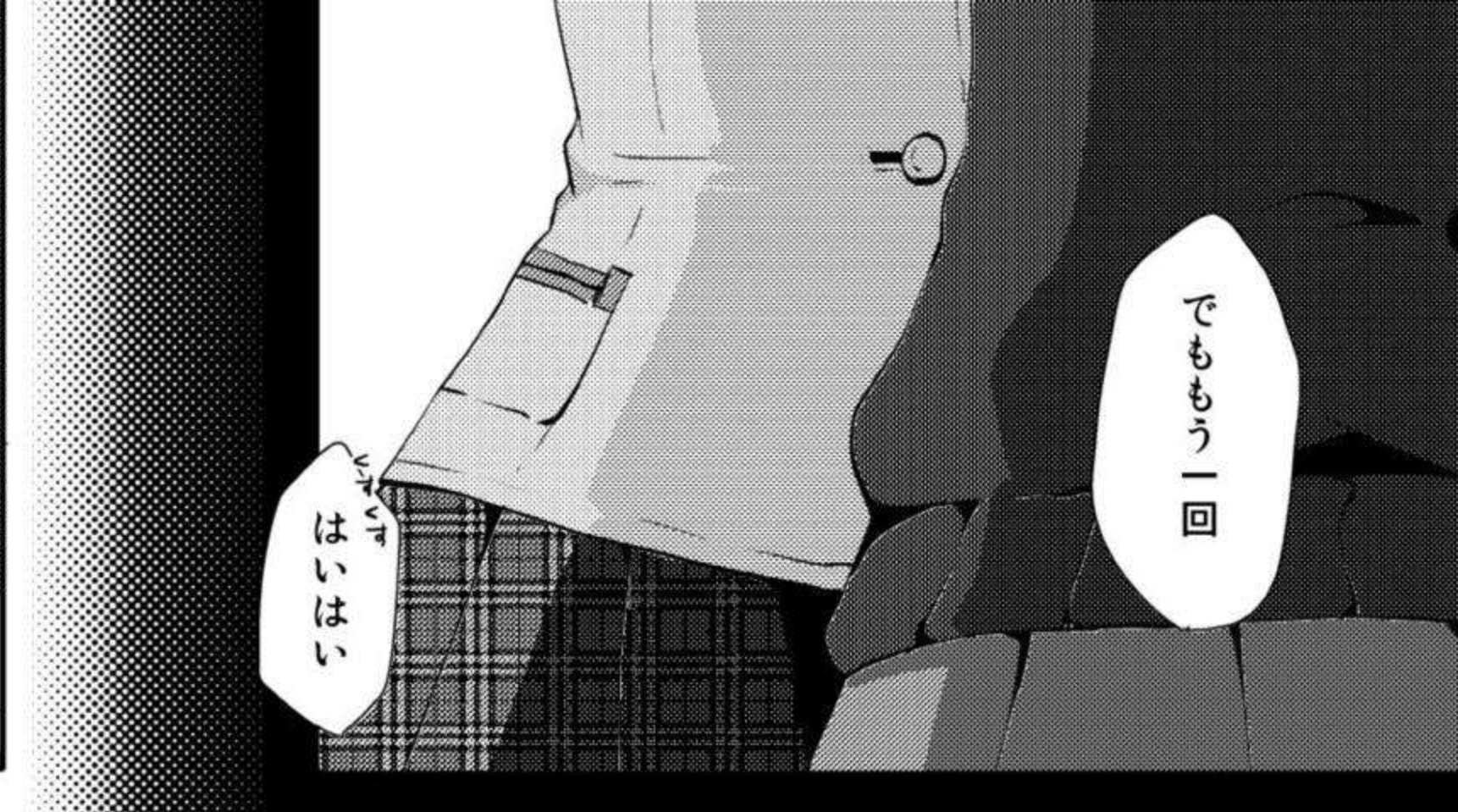
んっ

んあ

ふふふ  
凜ちゃんは  
キスが好きですね

……別に





理由なんか別に…

普通です  
好きなので

凜ちゃんが  
格好良くて

…可愛くて

気付いたら

あの

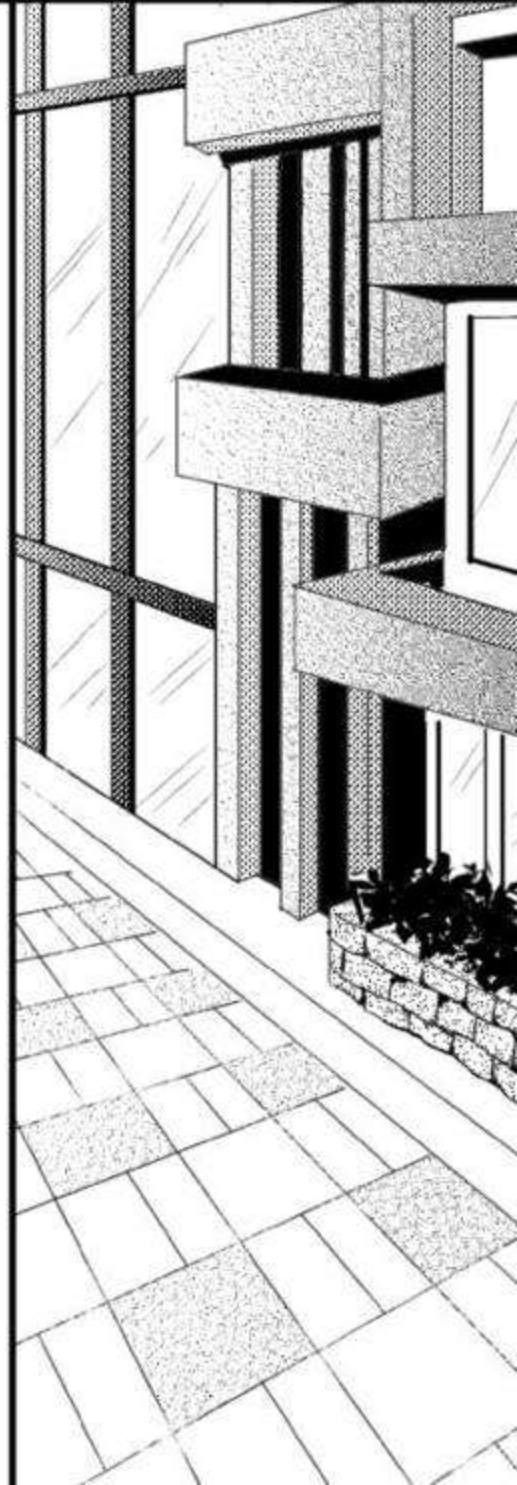
…えっと

まあ

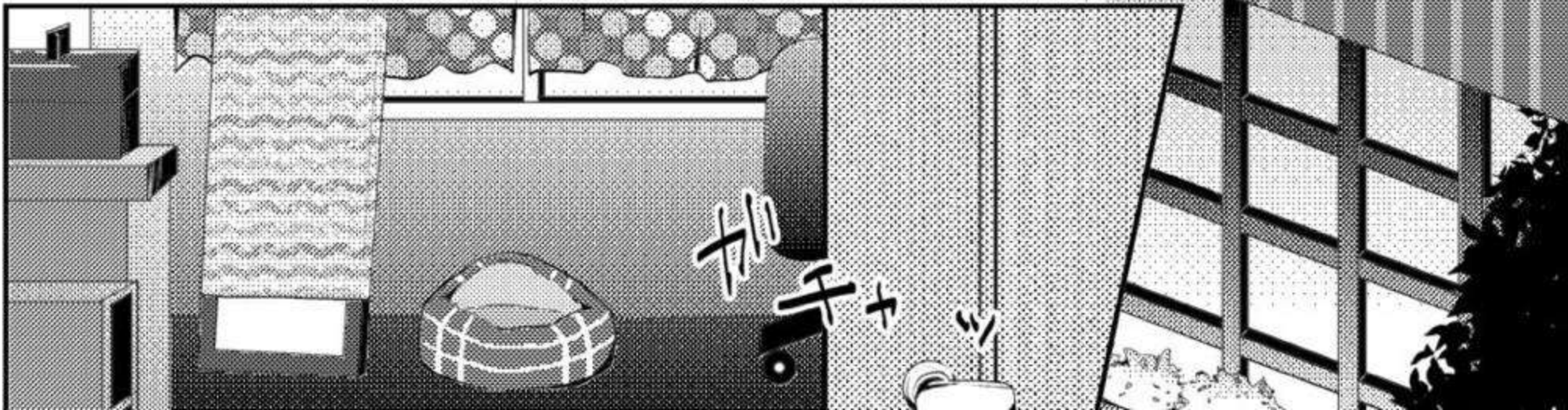
ふふ…ちゅわん

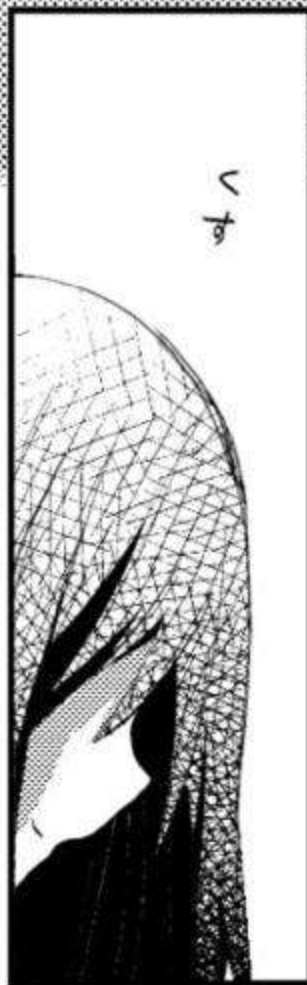
凜ちゃん…

…ん











…の会場行ったら  
またプロデューサーさんが  
居てですねっ

ふーん…  
やっぱり変な人だね

…あ



ま…また私ばかり  
喋ってますね

なんか付き合っても  
いつもと一緒にですよ

ん…だって

付き合うといっても  
いきなりだしさ



正直何すれば  
いいかなんて  
分かんないよ







…やっぱり  
言わずには  
いられなかったです

凜ちゃんを見てたら  
ドキドキがいつまでも  
止まらなかったの



——  
だとしても



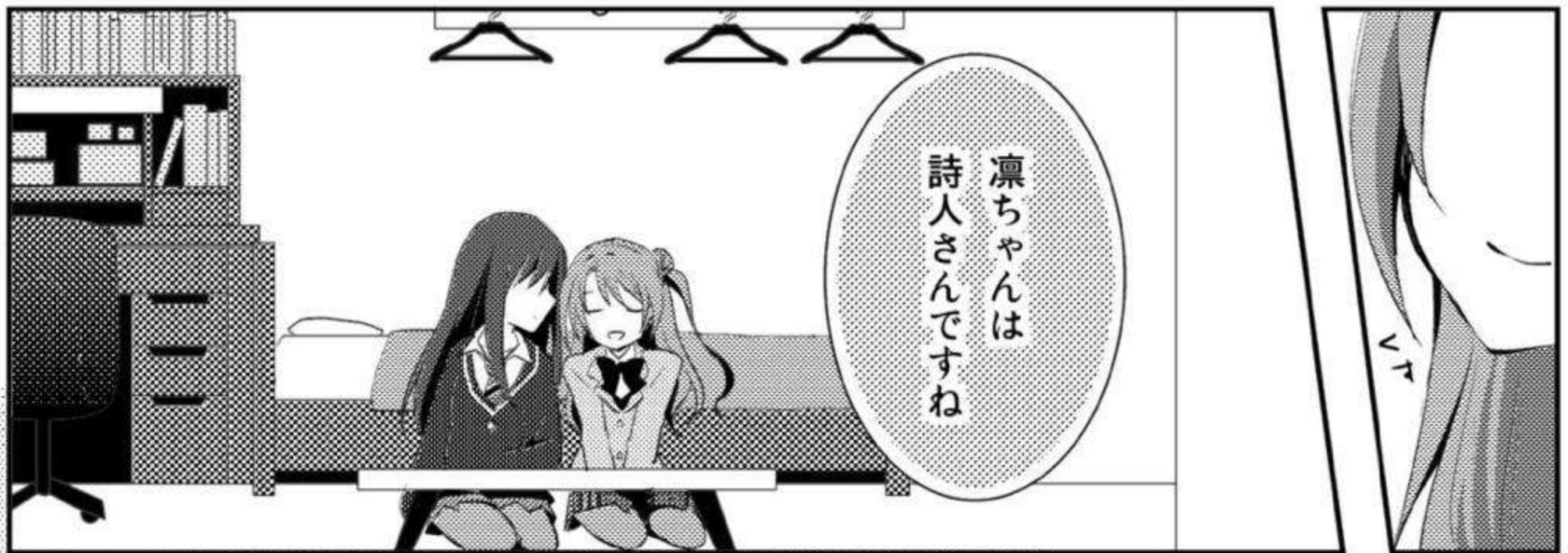
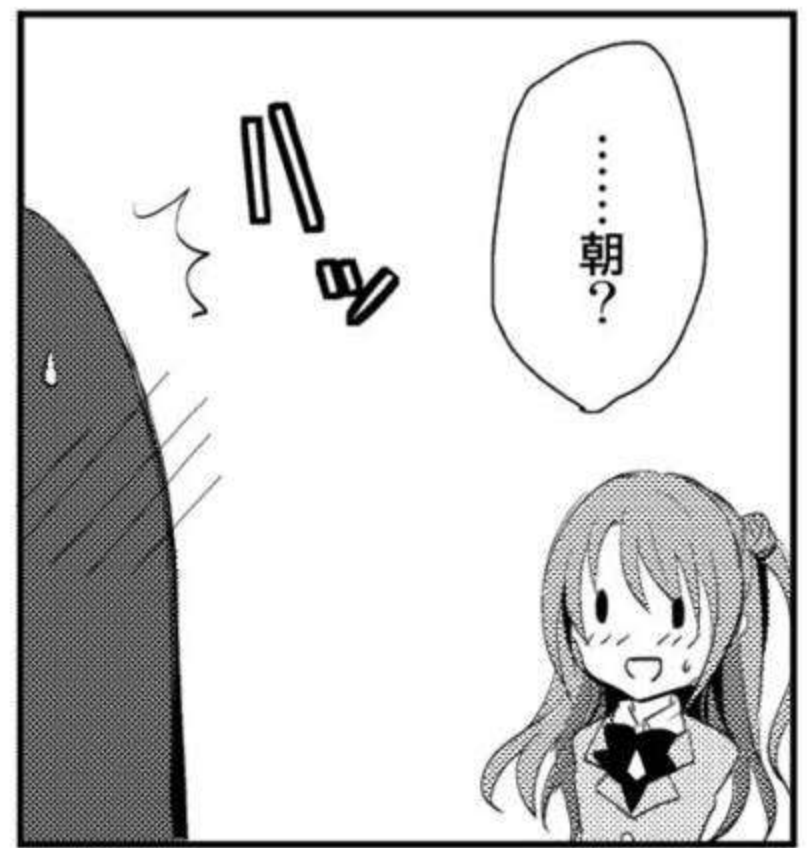
朝になって  
卯月が笑って  
くれたらいいよ

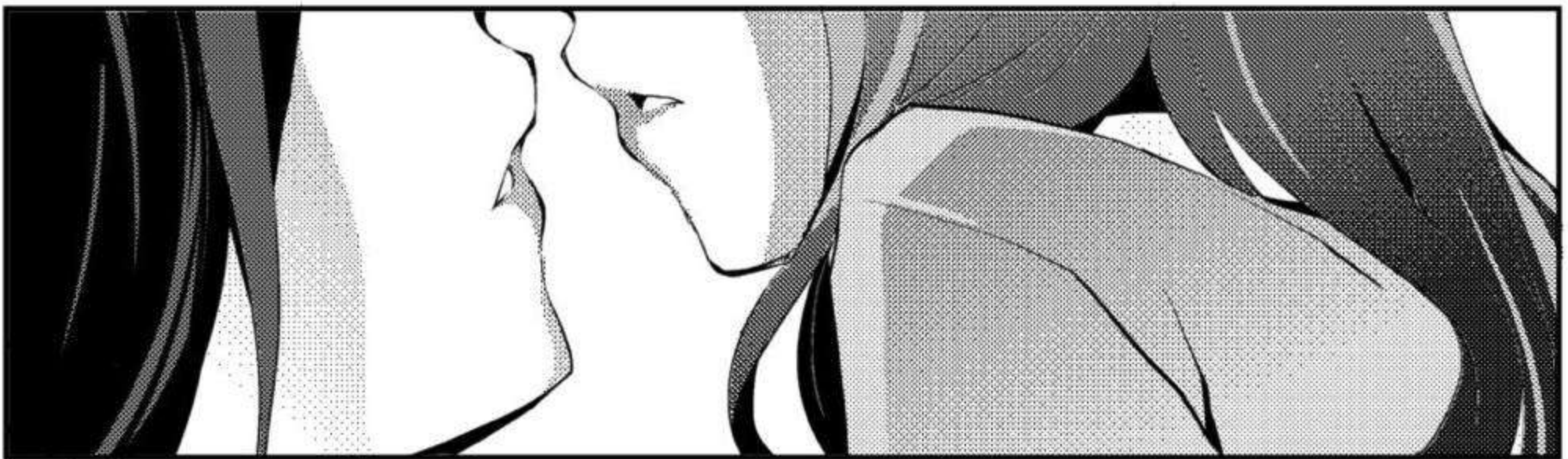
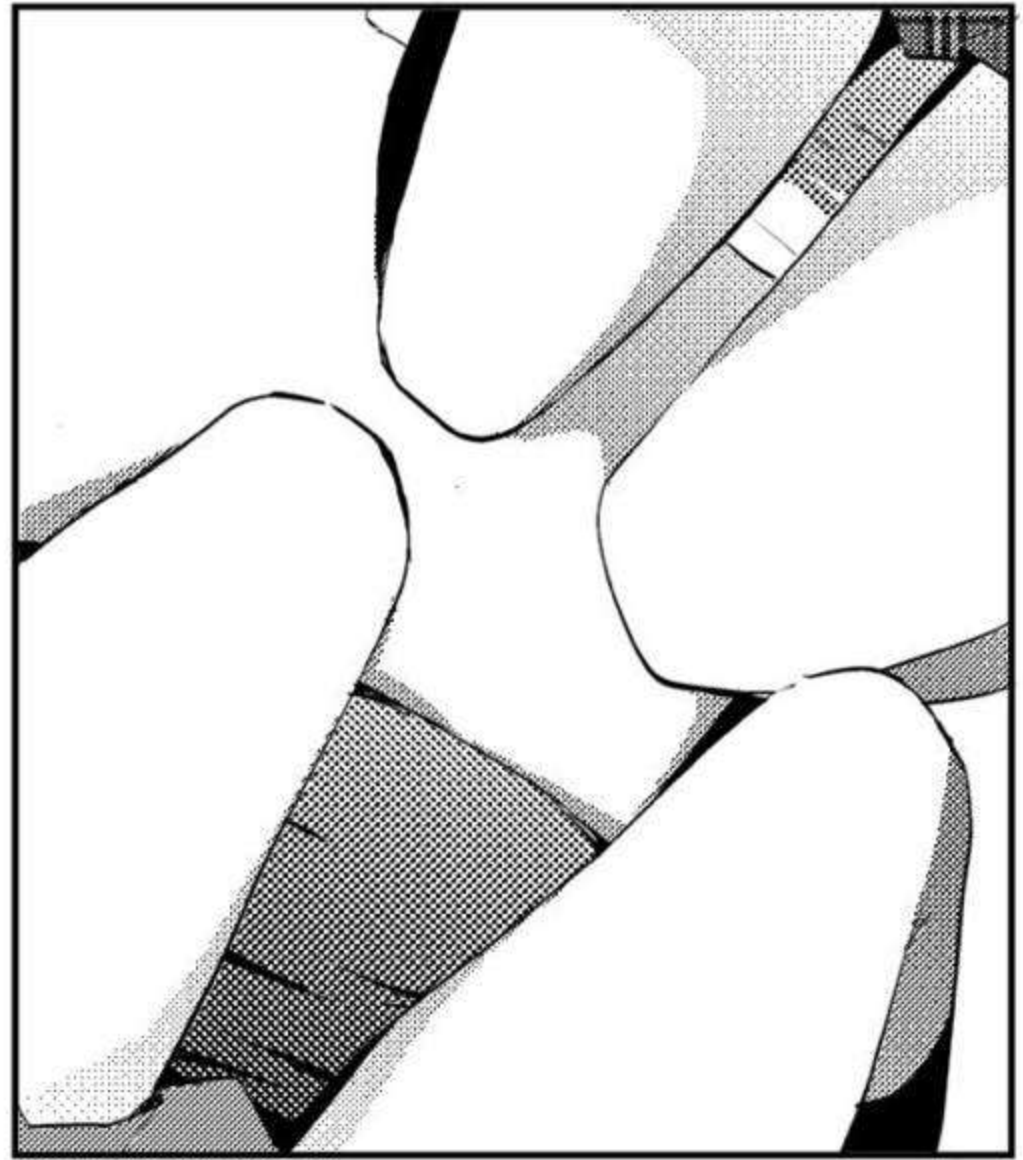
うん

私も



……そっか







はっ





もっとな...

も



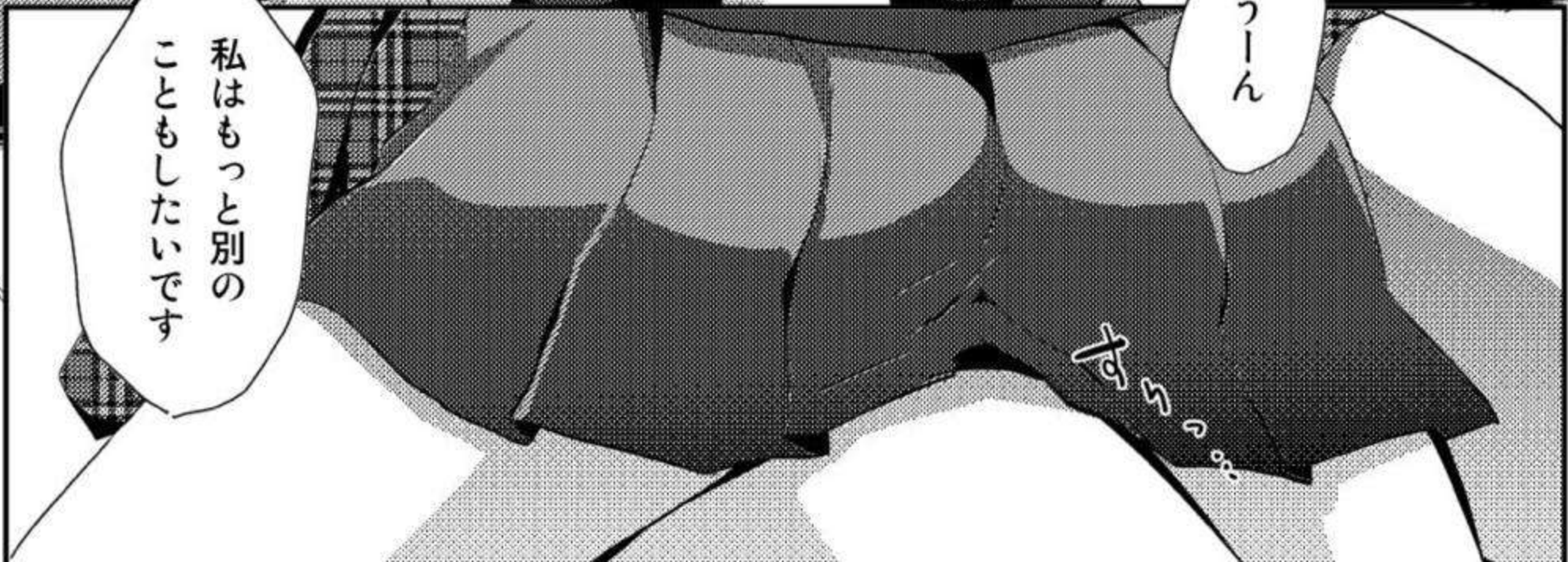
…凛ちゃんは私に  
どうして欲しいですか？



キス…  
たくさんしたい…



「もっとな」？



うーん

私はもっとな別の  
こともしたいです





……ふふふ……

わかりました

事務所でも  
帰り道でも

いつでもどこでも  
凛ちゃんとキス  
しますよ

街中でも部屋でも

それでも  
いいんですか？

……



ふっふっ  
凜ちゃんも脱がせて  
くれるんですね

だって卯月が  
脱がせようと  
するから私も…



んっ…



う…



脱がせるだけで  
いいんですか？













